

## 指示詞使用における指示対象の後置現象

### —実用的後置と修辭的後置を中心に—

近藤 芙由

#### 【キーワード】

指示詞、指示対象の後置現象、実用的後置、修辭的後置

#### 【要旨】

本稿は、指示詞使用における指示対象の後置現象について考察したものである。そして指示対象の後置が生じるのには、実用的な側面と修辭的な側面の2つがあり、前者の要素が強く現れているものを「実用的後置」、後者の要素が強く現れているものを「修辭的後置」として様々な例を用いて説明を試みた。その結果、「協調の原理」に則した形式で、相手に与える負荷が小さいものを「実用的後置」、またその特徴も持ち合わせたうえで、修辭的要素が前面に出ているものを「修辭的後置」として位置付けた。「修辭的後置」では、意外性・予想外性の高い指示対象が後置している傾向が高く、その意外性・予想外性を生かして、より修辭的効果をねらっていると見なせる例も、作文などにおいて確認された。また歌詞や小説の冒頭でも、指示対象の後置現象が多数確認でき、コソアによってそれぞれ生み出される効果が異なるということが明らかになった。

#### 1. はじめに

指示詞は、用いられる場面や文脈によって、会話の現場に存在する人や事物を指し示す「現場指示」と、文や発話の中で言及された語や句などを指し示す「非現場指示」の2種類に大別される。本稿では後者を考察対象とする。その非現場指示においては、以下の(1)のように「指示対象—指示表現」の順で出現する「前方照応」の語順が一般的であるとされている。

- (1) よくご飯とか食べに行ってた高校時代からの友達が最近結婚し少し離れた所になってしまいました。その友達は私が真剣に恋の相談(辛い話)とかしてもすぐ自分の話に持っていきます。(BCCWJ OC09\_05227, 480)

しかし、以下の (2) のような「指示表現—指示対象」の順で文脈上に出現し、指示対象の後置が生じている例が見られる。

- (2) お母さんは、ケンちゃんにこんなことを言うのです。「ケンちゃんも大きくなつたもんね。毎日おむつをかえていたのが、まるで昨日のことみたい。健康で育ってくれてとてもうれしいわ」お母さんは、本当にうれしそうでした。

(BCCWJ PB2n\_00045, 63040)

上記の (2) は、指示表現「こんなこと」が先に出現し、その後ろに指示対象の「ケンちゃんも (中略) ととてもうれしいわ」が出現しており、指示対象が後置していることが分かる。そしてこの現象は、(3) (4) のようにソ系とア系においても観察される。

- (3) 自分ではそれと気づかないうちに、ストレス性の胃潰瘍や神経性の腸炎になったりすることもある。(BCCWJ LBo1\_00038,11680)

- (4) M034: なんかく、明確なあれはあるんですか? 目標は。

M030: えー?

M034: こういう大人に私はなりたいみたいな。

(名大会話コーパス<sup>1</sup> data095, 142390)

(3) では、指示表現「それ」が先に文脈上に出現し、その後ろに指示対象「ストレス性の胃潰瘍や神経性の腸炎」が出現しており、指示対象の後置が見られる。また (4) においても同様に指示対象の後置が生じていることが確認できる。

ここで、本稿で使用する用語について定義をする。(2) (3) (4) で用いられている「こんなこと」「それ」「あれ」などについて、本稿では語形の差異、そして「指示詞+N」の形式をひと括りにして「指示表現」と呼ぶ。また、「指示対象—指示表現」の順で文や発話に出現する用法を「前方照応」と呼ぶことから、「指示表現—指示対象」の順で出現するものは、語順だけに注目すれば「後方照応」として見なせるかもしれないが、そうすると先に出現する指示表現が、あたかも文脈上の後方を指示しているという誤解を招く恐れがある。(特に (4) など。) それを回避するために、本稿では「指示対象が文脈上の概念であるか否かに関わらず、指示表現の後ろに出現している」ことに注目し、「後置」<sup>2</sup>という用語を用いて考察する。

## 2. 先行研究の概観と本稿の立場

本稿は、「指示対象が文脈上の概念であるか否かに関わらず、指示表現の後ろに出現

<sup>1</sup> 表記はすべて名大会話コーパスが提供する文字化資料の表記をそのまま採用している。詳細は以下を参照されたい。(https://mmsrv.ninjal.ac.jp/nucc/nucc\_abst.html)

<sup>2</sup> 後置要素の派生には、基底生成や移動などがあるが、本稿は、指示対象が指示表現よりも後ろに位置しているということだけに注目するため、派生方法を細分化することはない。

している」という指示対象の「後置」について扱うものであるが、類似の現象に「後方照応」がある。これはあくまで、文脈上の概念である指示対象が指示表現の後方に出現するというものであり、本稿の「後置」に内包される現象として位置付けることができる。したがってこの節では、「後方照応」についての先行研究も併せて見ていく。

本稿が扱う形式は、金水・田窪（1990：139-141）においては「解説のコ」<sup>3</sup>の一種として扱われ、機能的には以下（5）の現場指示と同一であるとされている。そして「物」の現場指示であれば、発話と提示は同時に行われるわけであるが、文指示は言語の線条性の制約を受けて、先後性を持たざるを得ない。」と金水・田窪（1990：141）は述べている。

（5）これは、実家から送ってきたものなんですけど、お口に合いますかどうか…（と  
言いながら品物を客に出す）（金水・田窪 1990：141）

従来、後方照応では「コ系が選ばれることが多く、ソ系はまれである（日本語記述文法研究会 2009：30）」や、「通常コが使われますが、（中略）硬い書きことばではソが使われる（庵ほか 2001：12）」という記述からも分かるように、ア系には後方照応がないとされてきた。しかし、実はア系にも後方照応と同様の振る舞いを見せる現象があるということが林（2008）<sup>4</sup>と山崎（2018）によって明らかになった。林（2008）は以下の（6）で使用されているような指示詞「あれ」に着目し、分析を行った。

（6）

1 A: →その：最近 あれ なんです  
2 °あの :: ° あれ (0.7)  
3 ガス管あるじ あれ じゃないですか..  
4 (.) あれ全部いま<プラス  
5 チツクになりつつある んです  
6 よ . = どんどん . = 鉄から . (林 2008：19)

林（2008）は上記のような例を提示し、「1行目の「あれ」はいわばダミー語として発話に埋め込まれ、その指示対象が後続の発話で特定されることを投射<sup>5</sup>している。これはいわゆる指示詞の「後方照応」的用法といえる（同 19）」と述べ、「後方照応（cataphora）、つまり後続の発話で提示される対象を指示する形で用いられている

<sup>3</sup> 「あるまとまった内容について説明・解説するために談話に導入した事物を、解説者が指し示す場合に典型的に用いられるコ（金水・田窪 1990：139）」

<sup>4</sup> 「従来の指示詞の研究によれば、日本語で後方照応に用いられる指示詞は典型的には「近称」の指示詞（コ系）であり、「遠称」（ア系）ではない。（中略）遠称指示詞の後方照応的用法は、指示詞研究の長い歴史の中でほとんど記述されてこなかった（林 2008：19）」

<sup>5</sup> 時間の流れの中で行為が産出されるとき、進行中の行為は常に「次に何が起こるか」を予示・予告する性質を持っており、そのような性質を「投射」と呼ぶ（林 2008：16）

(同 26)」と説明している。

山崎 (2018)<sup>6</sup>は、話し言葉における「あれ」の使用実態について、コーパスを用いて調査を行った。その結果「あれ」は、言語文脈指示と記憶文脈指示として用いられるのが大半であることが明らかになった。また、「あれなんだけど、～」という従属節を構成するもの(同 415)」や「実際に言いたいことの前置きの使う場合(同 415)」が見られたと報告している。

林 (2008) では、自然会話において「あれ」は、指示対象の特定を後回しにする使い方をするという指摘がされていたり、また山崎 (2018) では、前置きの使う「あれ」は「先取りした言語文脈指示と見なすこともできる(同 419)」と述べられているように、「あれ」は本稿における後置と同様の使い方をすることがあるということが明らかになった。以上ここまで簡単に先行研究を概観した。

1 節で提示した (2) や (3) は、先行研究に従えば後方照応として見なされる。一方 (4) は、一見すると文脈上の後方を指していると思わせることから、同様に後方照応として考えることができそうだが、実際には話し手の記憶内を指しているため後方照応とは言えない。そこで本稿は先述したように「後置」という用語を用いて、コソアの指示対象の後置現象を統一的に説明することを試みる。ここで本稿の立場を簡単に述べる。指示対象が後置するには、実用的な側面と修辭的な側面があり、前者の要素が強く現れているのが「実用的後置」、そして後者の要素が強く現れているのが「修辭的後置」として位置付けることができると考える。

### 3. 指示対象の後置現象とその類型

#### 3-1 実用的後置

本稿の考察対象となる「指示対象の後置現象」の中でも、以下に示す (7) のような文は「実用的後置」として位置付けることができる。

- (7) 今日の東京は雨ですが、風がないので穏やかに降っています。寒さも峠を越したのでしょうか？でも新聞やテレビでは連日寒～いニュースばかり……。先日、後輩がこんなことを言っていました。「嬉しいニュースとか、楽しいニュース、幸せになるようなニュースばかりを流してくれる番組があるといいですね～」

(BCCWJ OY03\_10168, 1110)

上記の (7) は先に指示表現「こんなこと」が出現し、その後ろに指示対象「嬉しい

<sup>6</sup> 日本語記述文法研究会 (2009: 16-17) の分類を用いて説明している。

現場文脈指示：発話の現場の状況が参照されて、指示が行われる。

言語文脈指示：談話の中の言語化された部分、すなわち言語文脈が参照されて、指示が行われる。

記憶文脈指示：記憶が参照されて、指示が行われる。

ニュース（中略）いいですねえ～」が出現しており、指示対象の後置が生じている。

2 節でも述べたように、金水・田窪（1990）は（7）のような非現場指示のコを「解説のコ」の一種として扱っており、「一種の現場指示とみなせる。（中略）発話の現場に見えない黒板が導入され、話し手が見えない指さしを行っている（同 139）」と述べている。これに従い（7）を考えてみると、まず、発話の現場に見えない黒板が導入され、そこには「嬉しいニュース（中略）いいですねえ～」が書かれている。話し手は、その黒板に書かれている内容を指し、それと同時に聞き手に向かって話しているのである。しかし、非現場指示の場合は言語の線条性の制約を受けるため、現場指示のように対象を指しながら発話するということが不可能である。それにより指示表現と指示対象に先後性が生まれ、「指示表現—指示対象」の順に指示対象の後置が生じたのである。

後置が生じた結果、次のようなことが考えられる。林（2008）では、次に何が起こるかを予示・予告するプロセスとして「投射」が導入され、ア系の「あれ」が、その機能を果たすという指摘がなされていたが、これは（7）についても同様に考えられる。つまり、話し手が先に「こんなこと」と述べたことで、「この後、「こんなこと」の内容について言及する」ということが、予示・予告されるわけである。

これを聞き手の立場から考えてみると、「こんなこと」が出てきた段階では、聞き手からすると、「こんなことって何だろう」と考えることになる。そしてそれと同時に「この後「こんなこと」の内容が明かされる」という予測がつく。そのため、指示対象の出現が予測でき、それを受け入れる心の準備ができている状態になる。

また、「こんなこと」というようにコ系で指示されていることから、（7）の指示対象の元々のありか（以下、格納領域と呼ぶ）は現場領域であることが暗示される。金水（1999）によると、コ系は非現場指示においても「直示<sup>7</sup>」の性質を保持しており、コ系の直示は「眼前の状況において指差しや眼差しによって焦点化された話し手の近傍の領域と関連付けられた要素を値とするもの（同 76）」であるため、「操作可能性、所有・所属関係、導入者の優先権、情報の多寡などの点で、話し手が指し示す対象を「近い」と認定できる対象（金水・田窪 1990 : 140）」が指示対象となるわけである。

したがって聞き手は、指示対象の格納領域が暗示されたことにより、「この後明かされる指示対象は、恐らく自分（聞き手）よりも話し手の方があらゆる面でアクセスしやすい事柄だ」という推測ができるようになる。もう一つ例を提示する。

(8) F076 : F106、あとでメイクするからね。

F106 : わー、何、それ。私メイクしたこと1回もない。

（中略）

F106 : うん、そうそう。粉とか振るのなしね。

---

<sup>7</sup> 談話に先立って、言語外世界にあらかじめ存在すると話し手が認める対象を直接指し示し、言語的文脈に取り込むことである。（金水 1999 : 68）

(中略)

F076 : あの一、あれとかするタイプ？マスカラとか。

F106 : したことないんだ。(名大会話コーパス data103, 213260)

本稿の考察対象である指示対象の後置は、下から 2 行目の F076 による発話内において生じている。先程と同様に考えてみる。F076 が「あの一、あれとかするタイプ？」と発話した時点では、F106 は「あれって何だろう」と考えることになる。そして「あの一、あれとかするタイプ？」と「マスカラとか」との間、つまり「指示対象が出現するまでの時間」は短いと考えられるが、その短い間に、F106 は「あれ」の内容の予測がつく。それは F076 によってア系で指されていることから、その指示対象は「F076 の記憶内に存在している何かだ」というように、指示対象の格納領域が暗示されていることに起因する。また、F076 によって「あの一、あれとかするタイプ？」と発話される以前にメイクの話が話題としてのぼっていたことから、F106 は「あれ」の内容が「メイクに関する事柄やその周辺の事柄」だと言語的文脈からも予測がつくと考えられる。したがって F106 は、心理的に負荷がかかっていない状態で F076 の後続発話を聞くことができると考える。

そしてこれは、会話の参加者が正確に意思伝達を行うために暗黙のうちに従っているルールとして、ポール・グライスによって提唱された「協調の原理」<sup>8</sup>の観点からも説明ができると考える。まず、指示対象が出現するまでの短い時間についてだが、相手とコミュニケーションをしているという状況下で、F076 が「様態の原則」<sup>9</sup>から逸脱して「あれ」の内容を特定せず、曖昧にしたまま次の話題に移るとは考えにくい。(意図的に指示対象の言及を回避している場合を除いて。)次に、後置した指示対象について考えてみる。F076 が「関連性の原則」<sup>10</sup>から逸脱して、これまでの会話の内容と全く関係のない事柄を指示対象として投入するとは考えにくい。そのため指示対象になり得るのは、これまでの会話で話題に上がったメイク関連の何か、あるいはその周辺の事柄であると想定できる。

まとめると、先に出現した指示表現は「様態の原則」により、後で話し手によってその内容が明らかにされる(=指示対象として出現する)ということが暗示され、その内容は「関連性の原則」により、当該の発話やそれに関連する事柄だという予測がつく、ということである。先に指示表現が出現することにより、後ろで指示対象が特定されるということが予示・予告されると同時に、その指示対象の格納領域が暗示されることで、指示対象の出現待機状態にある聞き手に心理的余裕が生まれる。このような要素が強く

<sup>8</sup> 「量の原則」「質の原則」「関連性の原則」「様態の原則」の 4 つの下位原則がある。

<sup>9</sup> 明瞭な言い方をすること。1. 不明瞭な表現を避けること。2. 多義的な表現を避けること。3. 簡潔に言うこと(不必要に冗長な言い方をしないこと)。4. 順序よく言うこと。(山岡・牧原・小野 2018 : 43-44)

<sup>10</sup> 関連性のあることを言うこと。(山岡・牧原・小野 2018 : 43-44)

現れているのが「実用的後置」である。

(9) 実用的後置：

「協調の原理」に則した形式をとって、相手に与える負荷が小さい文や発話。

- (i) 指示表現が先に出現することにより、後続の文脈で指示対象が出現し、特定されるとということが予示・予告される。
- (ii) 指示対象の後置が生じることにより、指示対象の格納領域が暗示され、内容の予測がしやすくなる。

以上のことから、「実用的後置」において後置が生じる指示対象は、言語的文脈から聞き手が大枠を予測しやすいものであり、その意味では聞き手に与えるインパクトは強くないと言えるだろう。

### 3-2 修辭的後置

指示対象が後置している例の中でも、先程の「実用的後置」とは異なる例を以下に示す。そしてこれらは「修辭的後置」に位置付けることができる。

- (10) HIV (エイズ) がすごく蔓延している日本ですが、(中略) 誰が感染しているか知っていますか？ これは噂だけど、飯島愛さんが感染しているらしいです。

(BCCWJ OC05\_01005, 780)

- (11) 高校生になって日本のドラマを見るのが趣味として定着しました。最初に自分で探して見たドラマは韓国でも放送されて有名な花より団子です。(中略) そこで、私の人生を決めてくれたあの芸能人に出会いました。日本のドラマのノブタをプロデュースの主人公である山下智久です。(JCK 作文コーパス k18-3)

上記の(10)は、先に指示表現「これ」が出現し、その後ろに指示対象「飯島愛さんが感染している」が出現しており、指示対象の後置が生じている。(11)も同様に指示対象の後置が生じている。「実用的後置」における特徴は(9)に示した通りであるが、それを踏まえた上で(10)(11)を見てみると、ほぼ同様の特徴を有していると考えられる。

しかし、後置している指示対象の性質において違いが見られる。先程、「実用的後置」は、言語的文脈から聞き手がある程度予測しやすいものが指示対象として出現しやすい傾向にあると述べた。(10)(11)を見てみると、「実用的後置」の指示対象よりも、意外性や予想外性の高い内容が指示対象として出現している傾向が強いと考えられる。そして(11)の場合は、その意外性や予想外性を生かして聞き手に何らかのインパクトを与えようとしているとも考えられる。(詳しくは6-2で言及する。)

したがって「修辭的後置」は、「実用的後置」としての性格も持ち合わせているが、意外性・予想外性の高い指示対象が出現しやすいことから、相手にインパクトを与える

という修辭的要素が前面に出ていると考えられる。以上のことを踏まえ、「修辭的後置」の特徴を整理すると下記のようなになる。

(12) 修辭的後置：

実用的後置の要素を持ち合わせ、その上で、修辭的要素が前面に現れている文や発話。

- (i) 指示表現が先に出現することにより、後続の文脈で指示対象が出現し、特定されるということが予示・予告される。
- (ii) 指示対象の後置が生じることにより、その格納領域が暗示され、指示対象の内容の推測がしやすくなるが、意外性・予想外性の高いものが指示対象として出現しやすいため、相手にインパクトを与える。

以上、「実用的後置」と「修辭的後置」について見てきた。ここから先は、コソアそれぞれ分けて考察していく。

## 4. コ系

### 4-1 実用的後置

コ系の実用的後置として、以下の例が挙げられる。

- (13) 邱さんは事業家としても有名だが、(中略)彼自身、こんなことを言っている。「原稿料はいくらだろう、と心中、気にかかっても口に出して言う人はいない。ところが、あの出版社は原稿料が安い、と後で陰口を叩いたり文句を言ったりする。ならば、最初にきちんと決めておけばいい。わたしは仕事を頼まれると、まず金銭的な問題を先に決めてから取りかかるようにしています」 そうなのだ。彼の指摘通りである。(BCCWJ LBr1\_00015, 13180)

上記の(13)は、先に指示表現「こんなこと」が出現し、後ろに指示対象「原稿料は(中略)取りかかるようにしています」が出現しており、指示対象の後置が生じている。では(13)はどのような意味で実用的な側面が強いと言えるのか。例えば、(13)を以下のようにしてみるとどうだろうか。

- (14) 彼自身、「原稿料はいくらだろう、と心中、気にかかっても口に出して言う人はいない。ところが、あの出版社は原稿料が安い、と後で陰口を叩いたり文句を言ったりする。ならば、最初にきちんと決めておけばいい。わたしは仕事を頼まれると、まず金銭的な問題を先に決めてから取りかかるようにしています」と言っている。

上記の(14)は、指示表現の部分に指示対象を埋め込んだ形式である。こうすると、指示対象が長いために主語と述語の対応がしにくくなってしまふ。その意味で、相手への負荷が大きくなってしまふと考えられる。つまり(14)の場合、「様態の原則」が遵守できず、「協調の原理」からやや逸脱した形式と見なせる。したがって(13)のように長い指示対象を指し示す場合、先にその内容を要約して「こんなこと」と提示することにより、相手に与える負荷を最小限に留めることができると考えられる。

また、コ系で指示されていることから指示対象の格納領域が現場領域であると暗示される。したがって、非現場指示でも直示の性質を保持しているコ系の指示対象は、「操作可能性、所有・所属関係、導入者の優先権、情報の多寡などの点で、話し手が指し示す対象を「近い」と認定できる対象(金水・田窪 1990: 140)」であることから、聞き手は「この後明かされる指示対象は、恐らく自分(聞き手)よりも話し手の方があらゆる面でアクセスしやすい事柄だろう」という予測がつく。もう一つ例を提示する。

- (15) 今日の東京は雨ですが、風がないので穏やかに降っています。寒さも峠を越したのでしょうか?でも新聞やテレビでは連日寒〜いニュースばかり……。先日、後輩がこんなことを言っていました。「嬉しいニュースとか、楽しいニュース、幸せになるようなニュースばかりを流してくれる番組があるといいですね〜」((7)再掲)

上記の(15)の指示対象は、(13)に比べたら長さも比較的短いため、指示表現の部分に指示対象を埋め込んだ形式にしても相手に与える負荷の大きさは変化しない。そうすると(15)は「修辭的後置」として見なすことができそうだが、ここで、判断の助けとなるテストを提示する。それは「なんとテスト」というもので、指示表現と指示対象の間に「なんと」や「実は」など種明かしの際に用いられる語を挿入して、指示対象の性質を検討するものである。「なんと/実は」の挿入によって、より文全体の種明かし文<sup>11</sup>的な要素が強まったら、その指示対象は意外性や予想外性が高いと判断がつく。そして、そのような指示対象が後置しているのは、3節で述べたように「修辭的後置」となる。

- (16) 今日の東京は雨ですが、風がないので穏やかに降っています。寒さも峠を越したのでしょうか?でも新聞やテレビでは連日寒〜いニュースばかり……。先日、後輩がこんなことを言っていました。{なんと/実は}「嬉しいニュースとか、楽しいニュース、幸せになるようなニュースばかりを流してくれる番組があるといいですね〜」

<sup>11</sup> (27) (28) のような文が、最もこの性格を有していると考えられる。

(15) をテストしたのが上記の (16) であるが、「なんと／実は」を挿入しても、文意に変化が見られず、寧ろ容認度が下がると考えられる。したがって当該の指示対象の意外性・予想外性は高くないと考えられる。したがってこれは修辭性が前面に出るものではないと判断ができ、本稿では実用的後置として位置付ける。以上がコ系の実用的後置である。

## 4-2 修辭的後置

コ系の修辭的後置として、以下の例が挙げられる。

(17) 数日前のこと。私が麻生首相の秘書をしてたら、首相がこう言われました。「帰る前でいいから、串ダンゴを部屋に運んでくれないかな」え??串ダンゴですか? (麻生首相って、甘党だったのね) (BCCWJ OY14\_32855, 280)

上記の (17) では、指示表現「こう」が先に出現し、その後ろに「帰る前でいいから (以下略)」という指示対象が出現しており、指示対象の後置が生じている。では (17) は、どのような意味で修辭的要素が強いと言えるのか。ここで先程の「なんとテスト」をすると、指示対象の意外性・予想外性が確認できる。

(18) 数日前のこと。私が麻生首相の秘書をしてたら、首相がこう言われました。{なんと}「帰る前でいいから、串ダンゴを部屋に運んでくれないかな」え??串ダンゴですか? (麻生首相って、甘党だったのね)

注目したいのは、指示対象の後続部分である。「え?串ダンゴですか? (麻生首相って、甘党だったのね)」と述べられていることから、話し手自身にとっても指示対象 (麻生首相の発言) は意外性・予想外性が高い内容であると考えられる。以上のことから (17) は「修辭的後置」として位置付けられる。

## 5. ソ系

### 5-1 実用的後置<sup>12</sup>

ソ系の実用的後置として、以下の例が挙げられる。

<sup>12</sup> 本稿でソ系の実用的後置として扱っているのと同じ形式が加藤 (2004 : 171) においても言及されており、「①硬い文章体で用い、会話体では用いない、② (中略) 欧文の定冠詞を直訳したような調子の文体として利用されているに過ぎない」と述べられている。ここで (20) を英訳してみると、「It has been more than a decade since the consumption tax, the introduction of which was met with great opposition, was placed on commodities.」となる。そして、「そ (消費税) の導入」は「the introduction of which」に該当し、関係代名詞が出現している。しかし日本語には関係代名詞がない。そのため、より指示関係を明確にしようとした結果、日本語としてこなれない形式にせざるを得ないと考えられる。

- (19) その復旧に一週間もかかった冠水事故により、複数の市区町村で甚大な被害が出た。(馬場 1992 : 24 に加筆)
- (20) その導入をめぐって大反対が起こった消費税が商品にかけられるようになってからもう 10 年以上経過した。(庵ほか 2001 : 13)

(19) は、指示表現「その復旧」が先に出現し、後ろに指示対象「冠水事故」が出現しており、指示対象の後置が生じている。(20) も同様である。指示表現についてより厳密に言うと、指示表現は「そ」のみである。

では、上記の 2 例がどのような意味から「実用的後置」と見なせるのか。非現場指示におけるソ系は、金水 (1999 : 87) で「言語的文脈によって形成される状況を指示の領域とする。指示の値は言語的文脈に依存し、その指示対象の言語外の世界における存在が直接保証される訳ではない」と述べられているように、発話に先立って指示対象が決定しているというわけではない。そのため、冒頭で「そ」が出てきた段階では、それが指し示す内容の予測はつかないと考えられる。

しかしそのすぐ後ろで「(そ) の復旧」と言われていることから、聞き手は「何かしらの事故や災害があって、それに関する事柄だろう」というように言語的文脈から指示対象の予測ができる。(20) も同様に文脈から指示対象の大枠を予測できる。それが可能となるのも、指示対象の格納領域が暗示されたためであると考えられる。非現場指示のソ系は、「言語的な表現によって談話に導入された要素を指し示すために用いられるもの (金水 1999)」であるため、(19) (20) の指示対象の格納領域は文脈領域である。よって言語的文脈を手がかりに指示対象を予測できると考えられる。

また、指示対象を冒頭の「そ」に代入して、再度頭から読み直すことで文章をより正確に理解することができる。したがって「様態の原則」を遵守していると思なせる。以上のことから上記の (19) (20) のような例が、ソ系の「実用的後置」として位置付けられる。

## 5-2 修辭的後置

ソ系の修辭的後置として、以下の例が挙げられる。

- (21) 自分ではそれと気づかないうちに、ストレス性の胃潰瘍や神経性の腸炎になったりすることもある。(3) 再掲)
- (22) 先週、第 2 話から観始めて、即効ハマってしまったドラマ……。 (中略) みんなそうだと思っただけど、ドラマとか好きになると、その中の登場人物で自分と一番近い感覚の人と気持ちがリンクしません？私の場合、上野樹里の役です。

(BCCWJ OY14\_00034, 4100)

上記の(21)は指示表現「それ」が先に出現し、その後に指示対象「ストレス性の胃潰瘍や神経性の腸炎」が出現し、指示対象の後置が生じている。(22)も同様に指示対象の後置が生じている。先に指示表現が出現することによって、その後で「それ」「そう」の内容が特定されるということが予示・予告されると同時に、指示対象の格納領域が暗示される。ソ系の場合は文脈領域がそれに当たるため、そこを手がかりに指示対象の予測を試みるが、「実用的後置」に比べると、予想がつきにくいと考えられる。したがって、意外性・予想外性の高い情報が指示対象として後置していると言えるだろう。そしてそれは「なんとテスト」をするとより分かる。

(23) 自分ではそれと気づかないうちに、{なんと／実は} ストレス性の胃潰瘍や神経性の腸炎になったりすることもある。

(24) みんなそうだと思っただけど、{なんと／実は} ドラマとか好きになると、その中の登場人物で自分と一番近い感覚の人と気持ちがリンクします。

以上のことから、予想外性の高い指示対象が後置している上記の(21)(22)は、ソ系の「修辭的後置」に位置付けられる。

## 6. ア系

### 6-1 実用的後置

ア系の実用的後置として、以下の例が挙げられる。

(25) M005: 畑もあるしね。

(中略)

F057: 今何作ってるんですか。

M005: 今?今あるのは、うん、一番向こうから行って春菊。その次がじゃがいも。その次が、あ、ごめん、春菊の後にあれがある。レタス。

(名大会話コーパス data078, 157530) <sup>13</sup>

上記の例では、先に指示表現「あれ」が出現し、その後ろに指示対象「レタス」が出現しており、指示対象の後置が生じている。では、(25)はどのような点で実素的要素が強いと言えるのだろうか。まず、指示表現が出てくる以前に、M005が自分で畑をやっているということを話している。そして指示表現「あれ」の直前には、「春菊」や「じゃがいも」といった野菜の名前が続いている。したがって、質問をした F057 から

<sup>13</sup> 一見すると、当該の会話は M005 が所有する畑での会話に感じられ、「あれ—レタス」は現場指示として解釈できそうだが、この会話が行われた場所は「ホテルの喫茶コーナー」(名大会話コーパスの文字化資料より)であるため、現場指示の解釈は許容されない。

すると、言語的文脈から「恐らく野菜や果物などが指示対象だ」という予測がつく。「畑で作っている農作物—レタス」というように「関連性の原則」に則している。したがって、意外性・予想外性が低く、修辭的要素が低いと判断できる。もう一例提示する。

(26) M034：なんかこう、明確なあれはあるんですか？目標は。

M030：えー？

M034：こういう大人に私はなりたいみたいな。(4) 再掲)

上記の(26)は、指示表現「あれ」が先に出現し、その後に指示対象の「目標」が出現しており、指示対象の後置が生じている。指示対象の「目標」は、「理想像」や「ゴール」という別の語であっても、M034の言わんとすることは伝わるだろう。この場合、言いたい対象のイメージ(=「目指すもの、理想」を意味する語)はM034の頭の中に浮かんでいるが、複数の候補(=目標/理想像/ゴール)がある中で、適切な表現を選んでいると考えられる。ただ、その候補の中から適切な表現を選んでいる間に会話を止めるわけにはいかない、つまり会話の流れを止めないために「あれ」を補完して発話の遅滞を防ごうとしていると考えられる。以上がア系の「実用的後置」である。

## 6-2 修辭的後置

ア系の修辭的後置として、以下の例が挙げられる。

(27) 高校生になって日本のドラマを見るのが趣味として定着しました。最初に自分で探して見たドラマは韓国でも放送されて有名な花より団子です。(中略)そこで、私の人生を決めてくれたあの芸能人に出会いました。日本のドラマのノブタをプロデュースの主人公である山下智久です。(11) 再掲)

上記の(27)は、指示表現「あの芸能人」が先に出現し、その後ろに指示対象「山下智久」が出現するという、指示対象の後置が生じている。(27)は「あの芸能人」というようにア系を用いているが、日本語記述文法研究会(2009:36)は「書きことばで、いかに書き手の強い思い入れがあっても、言語文脈の中に存在する指示対象を、ア系の指示表現は指示しにくい」と指摘している。

これに関して金井(2021)は書き言葉にア系が現れる例について「話し言葉では思い入れを表すために音声的な強調や抑揚を利用できるが、書き言葉では不可能である(同22)」と指摘した上で、書き言葉では「強い思い入れがあるだけでは十分ではなく、それを顕示するための方略が必要(同22)」だと述べている。つまり、書き手はその強い思い入れを表すために、記憶内の情報を文脈上に明示的に示していると考えられる。

ここで再度(27)を見てみると、「あの芸能人」の直前に「私の人生を決めてくれた」と書かれていることから、この書き手が「山下智久」に対して強い思い入れを持っている

ということが読み取れる。したがって自分にとって強い思い入れがある芸能人というのが誰なのかを読み手に効果的に伝えるために、「あの芸能人」というように記憶内から文脈上に明示的に示すという方略をとったと考えられる。もう一例提示する。

- (28) 外食となるとラーメンが多かったので久しぶりにあのお店に行くことにしました。あのお店とは・・・『山田うどん ひたちなかインター店』。実は、私独身時代（中略）『山田うどん 竹間沢店』でアルバイトしていました。（中略）このかかしの看板を見たときは懐かしさと安心感を憶えました。

(BCCWJ OY03\_09574, 1530)

上記の(28)は、先に指示表現「あのお店」が出現し、後ろに「山田うどん ひたちなかインター店」が出現しており、指示対象の後置が生じている。これも(27)と同様に、「看板を見たときに懐かしさと安心感を憶えるくらい」書き手は指示対象の「山田うどん」に対して強い思い入れを持っているということが分かる。それをより効果的に読み手に伝えるために、記憶から文脈上に明示的に示し、「あのお店に行くことにしました。あのお店とは・・・」というように、いかにも種明かしをするかのような形式をとっていると考えられる。そして(27)(28)は、以下のように「なんとテスト」をすることにより、指示対象の意外性や予想外性を確認することができる。

- (29) そこで、私の人生を決めてくれたあの芸能人に出会いました。{なんと／実は}日本のドラマのノブタをプロデュースの主人公である山下智久です。

- (30) 外食となるとラーメンが多かったので久しぶりにあのお店に行くことにしました。あのお店とは・・・{なんと／実は}『山田うどん ひたちなかインター店』。

以上がア系の修辭的後置である。

## 7. 歌詞や小説の冒頭における指示対象の後置現象

ここでは、歌詞や小説の冒頭における指示対象の後置について見ていく。以下に示すような例は一般に、聞き手／読み手をその作品の世界観に引き込む効果があると言われている。では、まずはコ系について見ていく。

- (31) これは白い雪が降っていた日の僕たちの物語だ

(歌詞検索サービス 歌ネット, SEVENTEEN 『あいのちから』)

非現場指示においても直示の性質を保持しているコ系を文学作品中に用いることで、より一層その効果が発揮されると考えられる。(31)を見てみると、コ系で指すによって「白い雪が降っていた」その場面を臨場的に聞き手に提示することができ、これは久

野（1973）が指摘した眼前指示<sup>14</sup>が修辭的に作用するためであると考えられる。次にソ系について見ていく。

(32) それはある日の事だった。――

待っていた為替が家から届いたので、それを金に替えかたがた本郷へ出ることにした。（青空文庫 Aozora Bunko, 梶井基次郎『泥濘』）

(33) それは或本屋の二階だった。二十歳の彼は書棚にかけた西洋風の梯子に登り、新しい本を探してゐた。（青空文庫 Aozora Bunko, 芥川龍之介『或阿呆の一生』）

馬場（1992）では、(32) のような例は「時間設定の文」として扱われ、また (33) のような例は「登場人物の動作や出来事・状況を漠然とさしてもちいられている（同25）」と述べられている。この「漠然と指し示す」というのは、ソ系特有であると考えられる。非現場指示のソ系は、「言語的文脈によって形成される状況を指示の領域とする。指示の値は言語的文脈に依存し、その指示対象の言語外の世界における存在が直接保証される訳ではない」と金水（1999：87）が述べているように、発話に先立って指示対象が決定しているというわけではない。したがって (32) (33) のような先行文脈が存在しない状況でソ系が用いられると、指示対象が保証されていないため、聞き手／読み手からすると、この後ちゃんと指示対象が明かされるのかという不安感、また反対に、これから歌や物語の中で指示対象が作り出されていくという期待感などを抱くと考えられる。では最後にア系について見ていく。

(34) あれは確かそう 17 の夏

（歌詞検索サービス 歌ネット, 川畑要『FLASH BACK』）

(35) あれはたしか終戦直後だった。正確な日付は覚えていない。しかしあのゼロだけは忘れない。悪魔のようなゼロだった。

（Twitter 文学作品冒頭 bot, 百田尚樹『永遠の0』）

(34) では「あれは 17 の夏だった」、(35) では「あれは終戦直後だった」というように、その当時にタイムスリップするかのような効果を生み出すと考えられる。それは、書き手が自身の記憶を辿って当時の思い出や経験を文脈上に提示していることに起因する。

そして (35) では、冒頭の「あれ」に続いて、「あのゼロ」と 2 つ目のア系が出現している。「悪魔のようなゼロだった」と書かれていることから、書き手のゼロに対する強い思い入れが読み取れる。6-2 でも言及したように、その強い思い入れを顕示するた

---

<sup>14</sup> あたかも、その事物が、目前にあるかのように、生き生きと叙述する時に用いられるようで、依然として、眼前指示代名詞的色彩が強いようである（久野 1973：188）

めに「あのゼロ」というように記憶から明示的に示していると考えられる。そしてそれが結果的に、実際には書き手と同じ経験をしていない読み手であっても、まるで当時の世界にタイムスリップして追体験しているかのような、そのような感覚に陥らせるのだろう。これがア系指示詞ならではの文学的効果だと考える。

庵ほか（2001：12）が「指示詞は指すものが決まることによって初めて意味をなす語なので、それが先に談話に現れると、聞き手／読者はそれが指すものを知ろうとし、後から出てくる指すものの内容に注意が向けられます」と述べているように、指示対象が後置していることによって、この後種明かしされる指示対象に注意が向けられる。それが、歌や小説などといった特殊な環境で行われることで、指示対象がまるで目の前に存在しているかのような臨場感を生み出したり、聞き手や読み手に不安感や期待感を抱かせたり、また当時の世界にタイムスリップさせたり、など様々な文学的効果を生み出すのである。

## 8. おわりに

ここまで、非現場指示における指示対象の後置現象について分析をしてきた。指示対象の後置が生じるのには、実用的な側面と修辭的な側面の2つがあり、前者の要素が強く現れているものを「実用的後置」、後者の要素が強く現れているものを「修辭的後置」として、様々な例を用いて考察した。そして「協調の原理」に則した形式になっており、相手に与える負荷が小さいものが「実用的後置」として、また、その特徴も持ち合わせたうえで、修辭的要素が前面に出ていると考えられるものを「修辭的後置」として位置付けた。「修辭的後置」では、意外性・予想外性の高い指示対象が後置している傾向が高く、その意外性・予想外性を生かしてより修辭的効果をねらっていると見なせる例も、作文などで確認された。また、歌詞や小説の冒頭においても指示対象の後置現象は多数確認ができ、コソアによってそれぞれ生み出される効果が異なることが分かった。

ソ系に関しては、他のコ系とア系とは性質がやや異なると考えられる。それが特に現れているのが5-1で取り上げたソ系の実用的後置である。関係代名詞を持たない日本語において、指示関係をより明確にしようとした結果、あのような日本語としてこなれない形式になってしまい、結果として指示対象の後置が生じたと考えられる。また「指示対象—指示表現」の語順ではソ系が多く用いられるのに対し「指示表現—指示対象」の語順ではあまりソ系が用いられないことは非常に興味深い。恐らく、これらを考える際の手がかりとなるのが、代行指示や分配的解釈などのソ系特有の用法であると考えられる。これらをもとに、指示対象の後置現象についてさらなる分析をする必要があると考える。

## 参考文献

庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2001）『中上級を教える人のための日本語文法

- ハンドブック』白川博之監修, スリーエーネットワーク
- 加藤重広 (2004) 『シリーズ・日本語のしくみを探る 6 日本語語用論のしくみ』研究社
- 金井勇人 (2021) 「作文におけるア系の指示詞について—《非—共同的共有知識》という観点から—」『日本語教育』179, pp.16-30, 日本語教育学会
- 金水敏・田窪行則 (1990) 「談話管理理論からみた日本語の指示詞」金水敏・田窪行則 (編) (1992) 『日本語研究資料集第1期第7巻 指示詞』pp.123-149, ひつじ書房
- 金水敏・田窪行則 (編) (1992) 『日本語研究資料集第1期第7巻 指示詞』ひつじ書房
- 金水敏 (1999) 「日本語の指示詞における直示用法と非直示用法の関係について」『自然言語処理』6 (4), pp.67-91, 言語処理学会
- 久野暉 (1973) 『日本文法研究』大修館書店
- 日本語記述文法研究会 (2009) 『現代日本語文法 7 第12部談話 第13部談話表現』くろしお出版
- 馬場俊臣 (1992) 「指示語—後方照応の種類について」『表現研究』55, pp.20-27, 表現学会
- 林誠 (2008) 「相互行為の資源としての投射と文法—指示詞「あれ」の行為投射的用法をめぐって—」『社会言語科学』10 (2), pp.16-28, 社会言語科学会
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2018) 『新版 日本語語用論入門—コミュニケーション理論から見た日本語—』明治書院
- 山崎誠 (2018) 「話し言葉における代名詞「あれ」の用法の分布」『言語資料活用ワークショップ発表論文集』3, pp.415-420, 国立国語研究所

## 引用資料

- 『青空文庫 Aozora Bunko』<https://www.aozora.gr.jp/> (2022/12/22 最終閲覧)
- 『歌詞検索サービス歌ネット』<https://www.uta-net.com/> (2022/12/22 最終閲覧)
- 『現代日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ』  
<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwjnt/search> (2023/01/06 最終閲覧)
- 『JCK 作文コーパス』<http://nihongosakubun.sakura.ne.jp/corpus/> (2023/01/06 最終閲覧)
- 『Twitter 文学作品冒頭 bot』[https://twitter.com/gakio\\_bot](https://twitter.com/gakio_bot) (2022/12/22 最終閲覧)
- 『名大会話コーパス』<https://mmsrv.ninjal.ac.jp/nucc/> (2023/01/06 最終閲覧)

(埼玉大学大学院人文社会科学研究所博士前期課程)